

おしらせ掲示板

4月1日からの労働時間のお知らせ

これまで、労働時間について管理が不徹底のままでしたが、複数の職員・アシスタントからの申し出があり、行田労働基準監督署に相談したところ、長時間労働は、労働基準法に違反となるので、是正すべきである、と指導をいただきました。そこで、4月1日以降の労働時間については、残業も含めて、1ヶ月200時間以内とするよう、お願い致します。また、1週間に1日は、必ず休日（全く仕事をしない日）をとるようにしてください。総務でも、個別に管理しますが、できるだけ各自で調整いただくようお願いいたします。

この件でご不明な点は、総務課までお問い合わせください。

レク課より報告とお知らせ

4月5日(火)、ひこうせん本部にて、お花見を行いました。
桜はまだでしたが、今年はお天気に恵まれ、キレイな青空の下、学童さんも交えて、楽しくにぎわったお花見となりました。

副理事長を始め、女職員の協力のもと、手作りの焼きそばとフライで、とてもおいしいお花見メニューとなりました。

次回のレク課のイベントは、6月にミニツアーや予定されています。

詳細は、随時報告していくので、みなさんお楽しみに！

<2011年度ひこうせんレクリエーション予定>

2011年4月：お花見[終了] 6月：ミニツアーアー 7月：バーベキュー
8月：納涼大会 9月：バスツアーアー 10月：いも煮会
12月：クリスマス会 2012年2月：新年会 3月：ミニツアーアー

アシスタントの方へ
総務部長 斎藤 洋子
労働契約書の提出はお済みですか?
まだの方、よろしくお願ひします。
原本証明をして、後日郵送いたします。

アシスタント研修のお知らせ
第一事業部長 内田 由利江
5月のアシスタント研修は、以下の日程で行います。

5月14日(土)
10:00～12:00
場所：それいゆ

5月17日(火)
13:00～15:00
場所：ひこうせん本部 2階



つ う し ん

ひこうせん通信

vol.55

3月11日に発生した「東日本大震災」で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。
一日も早く復興されることを願っています。
また、この大震災でお亡くなりの方にご冥福をお祈り致し、その遺族の方にお悔やみを申し上げます。

理事長 木村浩章



「東日本大震災 特集」

2011年4月20日

エヌピーオーほじん シーアイエル
NPO法人 CILひこうせん発行

絵：miyoko



編集・発行

NPO法人 CILひこうせん
〒361-0071
埼玉県行田市栄町 22-5
TEL : 048-(555)-1100
FAX : 048-(555)-1301
HP: <http://cil-hikousen.jp>

編集後記

今号は、東日本大震災特別号として発行されました。
震災で被災されました皆様に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。
今回の震災で、災害弱者と呼ばれる高齢者、障害者の避難、救済支援のあり方、もう一度きめ細かく考える必要があると思いました。
私たちの住む日本は毎年多くの自然災害に襲われています。
自然の恐ろしさを受容し日々暮らしていくなければなりません。
その上で常に防災意識を忘れずに、そして、復興に向けて力を合わせて頑張ること！！
がんばれ ニッポンです！！

ひがしにはんだいしんさいとくしゅう

東日本大震災特集

①インタビュー

ひこうせんの利用者の方やメンバー、職員など計11名に以下の4つの質問に答えてもらいました。

- 地震の時どこで誰と何をしていましたか？
- 今回の地震を、あなたは、どう思いましたか？
- 今後、地震に備えてどういう対策が考えられるでしょうか？
- 今後、地震に備えてどういう支援が必要ですか？

鈴木 恵子さん

●地震の時どこで誰と何をしていましたか？

普段であれば、ひこうせんに出勤なのですが、その日はあいにく風邪を引き熱も38℃近くあったので、自宅に1人で休んでいました。

●今回の地震を、あなたは、どう思いましたか？

凄く恐怖を感じました。電動車椅子をティルトした状態で休んでいて、寝て起きてから「少し動いてみようかな～」と思った矢先に、地震が来て、電動車椅子も大きく前後に揺れ凄く怖かったです。

家の中の大きな家具も大きく揺れ、中身が出てこないか心配でしたが、2～3個プラスチックのコップが落ちてきた程度で済んだのは、不幸中の幸いでした。揺れてる最中に停電になり、偶然にも揺れの反動で窓が開き、揺れがおさまったのを確認してから、怖くなって部屋から出ました。いつ電気が点くかわからない状態で余震に耐えながら、1人でヘルパーさんを自宅で待つのがイヤだし、絶対に耐えられないな…と思い、怖いなと思いつながらも人がいっぱいいる場所で、我が家から一番近い支所まで電動で避難しました。普段なら10分程度で行ける道も、線路の遮断機が下りっぱなしになっていて、30分くらいかかって着きました。

支所は真っ暗なままでしたが、職員達がたくさんの人を見てホッとしてました。

避難する前に、ひこうせんや、夫、その日支援に来る事業所の人にも、何度も不安と恐怖で電話をかけ続けたのですが、電話回線が全然繋がらずもどかしい思いをしました。メールもしたのですが、全然送信できず、段々と孤独感を感じ不安と恐怖が募るばかりでした。「こんななんだったら、熱があつてだるくても、ひこうせんに出勤すれば良かったかな～」って後悔もしました。

地震から数日が経ち、後から地震当日を振り返っても、あんな体験をもう二度としたくないと思いました。

●今後、地震に備えてどういう対策が考えられるでしょうか？

非常持ち出し袋を用意して、その中に自分が最低限必要な物（手帳や保険証、通帳や薬など）その他軽食やお水、トイレはなかなか出来ないと思うので、おむつを持っている人は、紙おむつなど用意しておくとイイと考えました。

携帯が繋がらない事も充分有り得るので、公衆電話用に小銭を用意しておく事も考えました。

●今後、地震に備えてどういう支援が必要ですか？

常に、災害が起きた時、自分の地域で一番近くの避難場所や、避難経路を確認しておき覚えておくこと。状況によっては役所や事業所を含め、どこにどんな伝達事項をした方がイイのかを順序を考えておくこと。いざ地震やその他の災害が起きた時、まずどういった行動を取るのが最良かを普段から話しておく事が大事だと思います。

杉浦 英俊さん

●地震の時どこで誰と何をしていましたか？ スペースKでヘルパーと職員とで仕事をしていました。

●今回の地震を、あなたは、どう思いましたか？ 恐かった。

●今後、地震に備えてどういう対策が考えられるでしょうか？ ソーラー電池開発。

自衛隊や警察・消防などのマンパワーを充実させ、いつでも救助にあたれるようにしておくことが重要。

●今後、地震に備えてどういう支援が必要ですか？ 地域との連絡がときに重要と考えます。

二階堂 一人さん

●地震の時どこで誰と何をしていましたか？ 自宅で読書していました。

●今回の地震を、あなたは、どう思いましたか？ とにかく恐かった。

●今後、地震に備えてどういう対策が考えられるでしょうか？ 地域との連携が大切。

●今後、地震に備えてどういう支援が必要ですか？ 個人の状態を把握しておいてもらいたい。

坂木 邦夫さん

●地震の時どこで誰と何をしていましたか？ アシスタントと散歩中。

●今回の地震を、あなたは、どう思いましたか？ 初めての経験で恐怖でした。

●今後、地震に備えてどういう対策が考えられるでしょうか？ 家具の固定。

●今後、地震に備えてどういう支援が必要ですか？ ひこうせんからなのか、市役所からなのか、支援先がわからないので ???

坂木 とし江さん

●地震の時どこで誰と何をしていましたか？ 家で一人でテレビを見ていた。

●今回の地震を、あなたは、どう思いましたか？ 恐怖の一言。

●今後、地震に備えてどういう対策が考えられるでしょうか？ 家具の固定。

●今後、地震に備えてどういう支援が必要ですか？ よくわからない。（どこからの支援のことなのか）

おおさわ みえこ 大澤 美江子さん

●地震の時どこで誰と何をしていましたか？

自立生活センターくればす主催の「ピア・カウンセリング集中講座」を受けていました。

●今回の地震を、あなたは、どう思いましたか？

人生で一番怖かった。

●今後、地震に備えてどういう対策が考えられるでしょうか？

避難訓練など毎日やった方がいい。

防災グッズも用意した方がいい。

●今後、地震に備えてどういう支援が必要ですか？

避難所を作る等。

ほりこし ひろし 堀越 寛さん

●地震の時どこで誰と何をしていましたか？

なかまの家で、丁度ベッドへ寝かせもらった直後で、そばにヘルパーさんが1人いたが、とても恐かった。

●今回の地震を、あなたは、どう思いましたか？

宮城県沖で、地震があることは以前よりわかっていましたが、想像を超える規模の大きさ、また津波によって大きな災害になったことは、自分に振り返ってみると、とても耐えられる状態ではないと思います。

●今後、地震に備えてどういう対策が考えられるでしょうか？

防災グッズ（非常食、水、寝袋、ライト、ストーブなど）の準備。それと普段より地域の人たちとの交流を深め、年に最低2回は地域ぐるみで避難訓練を実施した方が良い。

●今後、地震に備えてどういう支援が必要ですか？

自家発電の用意、最小限の医薬品の備蓄、障害者が比較的安全に避難できる場所をあらかじめ決めておく。

おおつか のりゆき 大塚 則幸さん

●地震の時どこで誰と何をしていましたか？

国立障害者リハビリテーションセンターで車椅子の細かい事を決めていたら、地震がありました。

●今回の地震を、あなたは、どう思いましたか？

とても恐かった。初めての経験。

●今後、地震に備えてどういう対策が考えられるでしょうか？

国と県と市でやらなければ何もできない。僕たちは障害者だから。

●今後、地震に備えてどういう支援が必要ですか？

携帯電話会社へ地震の時でも通話ができるようにしてほしい。

おおつか かずえ 大塚 和江さん

●地震の時どこで誰と何をしていましたか？

一人で自宅にいて、ゆっくりしていた。

●今回の地震を、あなたは、どう思いましたか？

怖かった。

●今後、地震に備えてどういう対策が考えられるでしょうか？

非常食（カップ麺など）を常備する。

●今後、地震に備えてどういう支援が必要ですか？

経済的支援。

ほその えりこ 細野 恵理子さん

●地震の時どこで誰と何をしていましたか？

私は、ひこうせん本部で内職をしている最中でした。

●今回の地震を、あなたは、どう思いましたか？

日々の生活の中で、震度3弱の地震は今までありましたが、今回のような震度5強の地震は、生まれて初めて体験しました。とても怖かったです。

●今後、地震に備えてどういう対策が考えられるでしょうか？

【今後に備えるもの】現金(1万円を千円に崩したものと小銭・カードなど)/懐中電灯/ミニラジオ/電池/カイロ/障害者手帳/保険証/受給者証/家族の連絡先がわかるもの/普段飲んでいる薬(1週間分)/500mLのペットボトル/保存食/一回分の着替え/携帯電話用電池式充電器/数日分のおむつ

●今後、地震に備えてどういう支援が必要ですか？

私は周りに仲間がいることで心強いと思いました。仲間のありがたみをより強く感じることが出来ました。

いしばし かずお 石橋 和夫さん

●地震の時どこで誰と何をしていましたか？

東京の病院に入院中でした。

●今回の地震を、あなたは、どう思いましたか？

自然の恐ろしさ、津波の破壊力、原発の恐怖。

ニュースで聞くだけでもストレスが溜まりました。

●今後、地震に備えてどういう対策が考えられるでしょうか？

避難所、避難路の確保。国として原発防災対策の強化（防災省など）

●今後、地震に備えてどういう支援が必要ですか？

物資の支援ももちろんですが、精神的なケアも必要。

東日本大震災特集 ②地震対策

ひこうせん関係者の方々にアンケート調査を行いました！その回答を項目ごとに記載させていただきます。

●今後、地震に備えてどういう対策が考えられるでしょうか？

☆防災用品の準備

食糧（カップ麺・缶詰など）・飲料水・ラジオ・懐中電灯・電池（単一・単二・単三）・ヘルメット・薬・防寒グッズ（カイロ・毛布など）・現金・着替え・タオル・ウェットティッシュ・ローソク・ライター・手袋（作業用）・ビニール袋・筆記用具・ナプキン・おむつなど
☆家具や備品などの倒壊防止対策。
☆逃げ道や避難所を確認しておく。

☆椅子での避難訓練。また、避難訓練を定期的に行うこと。

☆学童の場合、地震発生時の対応をスタッフ間で決めておくこと。

☆懐中電灯を一部屋につ一つ用意しておくこと。

☆棚の上に物を置かない。

☆震災はいつ起こるかわからない。とにかくその場所で安全なところに逃げる。

☆安全な緊急ブザーがあるといい。

☆家族や仲間との連絡手段をはっきり決めておく。

☆家族との集合場所を決める。

☆停電に備えて対策を考える。電気の確保。

☆地震に限らず日常生活の中で防災意識を持つこと

☆施設の耐震診断をして、必要によっては耐震補強工事をする。

☆地域の人との連携をとっておく。

●今後、地震に備えてどういう支援が必要でしょうか？

☆車椅子で避難できるようにしてもらいたい。

☆避難経路の確認、整備（バリアフリーにしておく）。

☆医療体制の整備。

☆定期的な避難訓練の開催。

☆避難時に何が必要か話し合って準備しておく。

☆ひこうせん使用者の家とスタッフの家を照らし合わせておき、近場の人が対応できそうか事前に把握しておく。

☆今回の地震のように一人だったらかなり怖い。どうしていいかわからない。とにかく近くの人に助けを求める。

☆車椅子の誰かに傍にいてほしい。

☆車椅子の人を含め、避難対策をきちんと市の方で確認し、自分たちもその施策を把握しておくべき。

☆色々なことをやってくれるボランティア（心のケア・家の片付け、修理・食事の支援など）の登録。

☆必要な物資を被災地へ届ける手配。

☆医師・看護師を被災地へ派遣する手配。

☆ハザードマップを色々な想定で確認しておき、実際に車椅子での演習を行う。これらを地域での協力体制とするために日頃から繋がりを作る。これらが支援となる。

アンケートにご協力いただいたみなさま、ありがとうございました！

東日本大震災特集 ③ひこうせんが考える非常時の心得

ひがしにほんだいしんさい まな 東日本大震災に学ぶ！！

しそん きょうい み まも
・・・自然の脅威から身を守るために・・・

ふくくりにわとう 喜びとう きみこ
副理事長 齋藤 貴美子

3月11日の東日本大震災は、私たちの生活を一変させてしまった。

M9.0という経験したことのない地震と巨大津波、そして人災ともいえる原子力発電所の事故によって、物資の不足に加え、電力不足が生じているのだ。生産や経済もマヒし、日本は戦後最大の危機を迎えている。

日々、伝えられる被災地や原発事故現場の模様に動搖せず、自分自身の尺度でもって、自らの生活の安定化をめざそう。

では、私たちが今すべきことは何か？ネットから抽出してみた。

今、すべきこと

1. 募金・チャリティ活動
2. 節電をする
3. 物品の買い占めをしない
4. 日常に感謝する。
5. 普段通りの生活をする
6. 避難場所や連絡手段の確認
7. 防災非常袋の確認
8. 家具などの耐震対策
9. 被災地のことを考えたり、痛みを共有する。
10. 献血をする

なかでも、6, 7, 8は忘れずに対策を取っておいた方がいい。大震災になると、携帯も固定電話も使えない。むしろ、ネットやツイッターの方が情報収集できた。日頃からつながるように準備しよう。7の非常袋については、本格的でなくてもいいから、毎日、どうしても必要なもの、例えば、薬とかは3~7日間分くらい、いつも持ち歩いていた方がいいと思う。各自の工夫が必要。

また、被災地に直接、支援物資が届けられるようになったと、熊谷の清水貴子さんから連絡がありました。「缶詰、レトルト、お菓子、米、乾物、カイロ、マスク、生理用品、紙オムツ、除菌、せっけん、薬、薬局で手に入る化粧品以外の品物、子供のおもちゃ、絵本、児童書、中高年向けの本」の寄付をお願いしたいそうです。

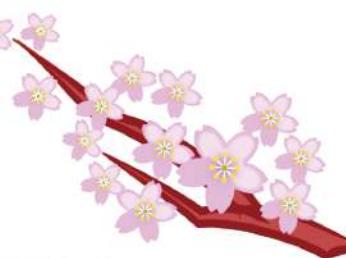
できることから支援していきましょう。

ひこうせん新年度開始!

障がい当事者を中心とした組織体制の構築

理事長 木村浩章

4月は、多くの人が桜が咲き、なんらかの新しいことをスタートの季節だと考えるでしょう。しかし、今年は、東日本大震災の影響で例年の春と違い日本中に閉塞感があり、それに同調しているように桜の開花も遅くなりました。



そんな中、ひこうせんは多くの皆さんのご支援のおかげでこの4月で第8事業年度を迎えました。昨年度は、6つの夢を建設し、昨年12月から「絆」という事業名で共同生活事業(ケアホーム)を開始致しました。また、この事業に連動して今年の3月から生活ホーム「なかまの家」が「絆」の傘下として、ケアホームに移行しました。

今年度の主な事業計画として、

- ① 障がい児童クラブ「きらきら」を障害者自立支援法に基づく児童デイサービス事業への移行
- ② 2013年に制定予定である「障がい者差別禁止法」を見据えた「行田市障がい者差別禁止条例」の制定を本格的に関係機関への要望活動等

の2つです。特に①の児童デイサービスの移行がされたら、現在、ひこうせんが実施している事業の中で、生活サポート事業以外は、全て障害者自立支援法に基づいて運営をしていることになり、継続的に安定した法人基盤を築くことになります。それによって、より多くの利用者や家族の様々な支援を安定して実施したいと思っています。

ひこうせんは、障がい当事者を中心の組織です。設立8年目を迎えて、法人全体の規模も年々拡大路線を歩んで来ています。今後は、一段と日常業務の中で障がい当事者が運営に責任を持つことが大切だと考え、各事業に障がい当事者の責任者を今までの5名から8名に増やし、今まで以上に障がい当事者の意見が反映される組織の構築に全力で取り組んでまいります。

気持ち一新！ひこうせんスタッフからの言葉

4月から新しいスタートを切ったひこうせんスタッフの方たちからのコメントです。

平成23年度ひこうせん新採用職員

寺門 七恵さん

就職は結婚のようなものといいますが、私はこの2年間ひこうせんとじっくりおつきあいをさせていただき、この縁を結ぶこととなりました。

これからもむつまじく末長く関係を続けたいと願っております。

ふつつかものですがどうぞよろしくお願いします。

4月よりPAG・PAK・レスバイト輪・絆を総括管理することになりました。昨年よりもまた一部署が増え不安もありますが、東北大震災により日本が不安定なこの時期「みんなが一つになって」という言葉を心に持ちながら皆様に協力していただき、日々精進したいと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。

4月より、第二事業部部長 兼、それいゆ(就労継続支援B型)課長に配属となりました高沢です。分からぬことも沢山あり、ご迷惑をお掛けするかもしれませんのが、皆さんのお力を借りしながら頑張りますので、宜しくお願ひ致します。

総務部部長 齋藤 洋子さん

この度、総務部長の役職を受けさせていただきました。私は、ひこうせんのメンバーさん、職員の人達がいつも仲良く仕事ができる事が一番と思っています。そして、皆様に助けていただきながら、職務を遂行できるよう努力していきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

企画開発部部長 細野 恵理子さん

企画開発部の部長になりました。細野です。

これからも、皆さんに楽しんでいただけるイベントをより良く考えていくたいと思います。広報部では、ひこうせん通信の原稿を皆さんに依頼しています。

これからも、ひこうせん通信の内容を充実させていきたいと思いますので、企画開発部をよろしくお願いします。

「ひこうせんのみなさんへ」※ひこうせんが自指してきた事・自指して行く事

- ・CILとは、障害者が、地域で自立するための支援する場所である。
- ・ひこうせんは、障害を持っている人達が働くための場所である。
- ・ひこうせんは、障害者が中心となって、運営している所である。
- ・理事長をはじめ、役職のある人は、ほぼ、障害者が占めている所である。
- ・ひこうせんは、障害者のおかげで、健常者的人達が働いている場所である。
- ・一般の会社とは、健常者的人達が働く所に、障害を持っている人が、障害の程度にあわせて仕事をしている所である。

CILひこうせんでは、(一般の会社とはちがうのは、)ひこうせんは、障害者が運営の側に立ち、どんな障害者でも働く場所をめざしているNPO法人なんです。

私が、ひこうせんに関わる、きっかけは、友人が、地域の中で障害者が、暮らすための第一歩で、生活ホーム(なかまの家)と言う所に入ると言うので、自分も、施設生活よりも地域で暮らしたり、仕事も、したいと思っていたので、一度、障害者が、暮らすという事は、どういう事を自分の目で、たしかめておこうと思いつ生活ホーム(なかまの家)のオープニングに友人に招待してもらった事が始まりです。

それから、ひこうせんと関わって6年間が経ちます。ひこうせんが今も今まで、やってきていたる活動は、少しずつですが、色々な所で知ってもらえてていると思います。ひこうせんがここまで大きくなり、行田市の考え方や行動などが少しですが、変わった気がします。まだまだ面もありますが。

NPO法人CILひこうせんに関わっている健常者(職員・アシスタント・アルバイトなどで)関わっている人は、私には、大切な人であり、大切な仕事仲間である。障害を持っている私達を一般のOLと同じ様に見ててくれているし、私達を評価してくれます。

私は、一人ひとり、性格の様に個々で違う障害(ハンディ)を持っています。ひこうせんに関わっている健常者(職員・アシスタント・アルバイト)の人達は、障害者と仕事をやるパートナーです。

私は、一人でも多くの障害者が地域で暮らせる様に仕事をしていきたいです。

企画開発部 広報課 石橋 和夫さん

この度、広報課 課長をさせていただきました石橋です。

広報は、ひこうせんの情報発信の大変な部署と思っております。

どこまで出来るか不安もありますが頑張ります。

今後とも、ご支援とご指導を賜りますよう、何卒宜しくお願ひ申し上げます

企画開発部 レク課 鈴木 恵子さん

4月より企画開発部・レク課の担当になりました、鈴木恵子です。ひこうせん復帰後、約一年でレク課の話が飛び込んできて、私が受けました。

まだ慣れない役職で、教えてもらいながらの部分もありますが、私なりにひこうせんの皆さんに喜んでもらえるような企画やイベントを考えていけたらナ~...と思っています。

先日も、初イベントとなるお花見を行い、みなさんの協力により何とか乗り切ることができました。

まだ慣れない点も多いですが、これからよろしくお願ひします。

コラム れすぽんす

木村 浩章

世界でも例をみないほどの災害である東日本大震災。おそらく、日本が第2次世界大戦で敗北して以来の未曾有の危機である。

そんな中、いち早く被災者支援や救援活動、復興支援等に取り組んでいるボランティアのみなさんに敬意を払いたい。

1995年に起きた阪神・淡路大震災で行政の対応の遅れを指摘された一方で、民間ボランティアの活躍が社会から賞賛を浴び、そのような草の根活動の必要性が高まり、NPO法の制定まで至った。今回の震災でも、救援活動や復興支援等でボランティアの力は大切なものになっている。このように、災害における支援体制は整いつつある。

この震災直後のラジオで、「受援者」という耳慣れない言葉を聞いた。この「受援者」は、「支援者」の反対語で、つまり、「何らかの支援を受ける人」のことである。そのラジオでは、この「受援者」のことを取り上げていた。それは、特に高齢になるほど、「人様の世話になりたくない」とか、「人様の世話になるのは恥」と言って支援を拒否するケースが多いと伝えっていた。

長年、日本では、特に男性は、「誰にも頼らずにしかも家族を養うのが、一人前の男である」と言われ続け、そして、そういう男性達が現代社会を作り上げてきた。のために障がい者、女性、同性愛者等のマイノリティーの人には、生活しづらい社会になってしまった。

障がい者は、毎日を何らかの「支援」がないと生きられないので、ここで言うところの障がい者こそが「受援」のプロと言っても過言ではない。

今回のような大災害の時に障がい者が出来る支援の一つとして、「どう他人に何をしてほしい」を伝えるテクニックや「決して、他人に頼ることは恥でも遠慮することでもなく、生きるために大切なことである」ということを伝えることがあげられる。

これから学校や社会教育においては、他人を「支援」する大切さを教えることと、同時に他人に頼ることの重要性、「受援力」を養う教育も必要である。この「受援力」を身につけることによって、災害に限らず、最近、社会問題になっている凶悪犯罪やネット犯罪などに巻き込まれる事も未然に防ぐ役割もあるだろう。

あっとキミコ

脱原発は可能か？

齋藤 貴美子

毎日、東電の原子力発電所の放射能漏れのニュースが流されている。

広島、長崎と原子力爆弾を落とされ、平和を訴えて来た日本で、発電のための施設が、全世界に恐怖を与えることになってしまうとは、あってはならないことである。

政府や東電の発表も、戦時下の大本営発表のようだと、複数の人が指摘している。いったい、正確な現状はどういうことなのかわからない。

どこまでが安全で、どこまでが危険なのか。

地震の被害に上回る底知れない恐怖を原発事故は与え続けている。

原発を作り、推進してきた者たちは、この事態に対して、明確な指針を示すべきである。

まず、絶対に今後、臨界は起こしてはならないし、安全に廃炉にしなければならない。

その上で、正確な飛散の情報を知らせるべきである。フランスでは、切尔ノブイリ事故の教訓から、操作せず、開示し、各判断材料を提供している。

原発推進派からすれば、原発は安全で、日本の電力需要を確保するためには、必要な発電方法なのだ。しかし、今回の地震で、原発安全神話は、木っ端みじんに碎け散った。わたしたちの住む日本は、今後、原発による発電から脱却していかなければならない。それは、国民の総意として、意思を明らかにしなければならない。

原発の放射能汚染を一刻も早く、食べ止めること、原子力による発電には頼らずに電力需要に応えられる方策を明らかにすること、大前研一氏は、電気予報を推奨しているが、その他にも原発以外の発電所の建設、太陽光発電や蓄電方法の開発など、今、原発の恐怖と電力不足から来る不安を解消することは、何をおいてもやるべきことである。

脱原発は可能か？というよりも、脱原発はやらなければならないのである。そのために、一時、テレビを見なければよかつたり、洗濯の時間をずらせばいいのだったら、国民は協力を惜しまないだろう。

予想される夏の電力供給不足までには、いくらかの時間がある、しかし、そう多い時間ではない。「優秀な日本の専門家」のみなさん、本当に本当に答えを示してもらいたい。でなければ、最悪、日本に住むこともできなくなる。

日本の原発の廃止を訴えたい。